

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌



「果樹の里山まつり」には、大阪の大学生も参加します。

特集

世代と地域を超え、 里山の未来をデザイン！

鹿野町河内果樹の里山協議会

- 04 私たちの活動を紹介します！
めぐみのゆ公園を育てる会(湯梨浜町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(11・12月)
- 23 社会教育・生涯学習担当者紹介(北栄町)
- 24 とっとり県民カレッジ(市町村連携)を開催
しました！
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとするで～



ドローンで空撮した鹿野町河内地区。川の左側に果樹を植えています。

世代と地域を超え、里山の未来をデザイン！

こうち ～鹿野町河内果樹の里山協議会～

鹿野町河内地区で、耕作放棄地を果樹園に生まれ変わらせ、地域ににぎわいを生み出す「鹿野町河内果樹の里山協議会」。その取組について、代表の佐々木千代子さんと事務局の小林清さんにお話を伺いました。

耕作放棄地をなんとかしたい！

鹿野町河内地区は、城下町地区から8kmほどの中山間地域で、「^{かみじょう}上条」と「^{しもじょう}下条」、「^{やばら}矢原」の集落があります。鷲峰山を望み、法師が滝、棚田など自然や里山の魅力が詰まった日本の原風景が広がる地域です。

地区の世帯数は81世帯、161人（令和4年8月現在）。少子高齢化と過疎化が進み、耕作放棄地の拡大と集落の消滅を危惧した住民有志が、もともと水田だった場所に果樹を植えることを提案。平成28年4月、鹿野町総合支所と地元の「NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会」、小鷲河地区公民館、鳥取大学の学生とともに「鹿野町河内果樹の里山協議会」を立ち上げました。耕作放棄地に果樹を植え、収穫した果実でジャムなどの加工品を作り、「果樹の里山まつり」を開催するなど里山ににぎわいを生み出しています。

「果樹ならあまり手がかからないと思った」と小

林さん。「地区内で果樹栽培の経験者はいない。もう素人の集まり。でも、果樹は地区にあり実をつけていたので、土地にあっていと思って」。研究を重ね、失敗もしながらやっと実をつけるようになってきたそうです。イチジク、栗、柿を中心に、リンゴやすもも、プルーンなどを植えています。「アーモンドとヘーゼルナッツにも挑戦中。これは私が食べたかったから」と笑います。

多様な主体が連携し、河内を「想う」

活動には、大学で観光について学ぶ大阪国際大学の学生たちも参加しています。過去に、東京で行われたシンポジウムで小林さんが鹿野の取組を発表したとき、担当の先生が興味を持って聴いて、「鹿野を訪れてみたい」と申し出がありました。そのとき、「来るだけでなく、しっかりまちに関わってほしい」と小林さんは打ち明けたそうです。その後、河内の耕作放棄地の課題解決について協力を

お願いしたところ、「過疎地に人を呼びこむための学びにつながる」と、大学側が快く引き受けてくれることになりました。

活動には、地区の住民も協力します。「最初は耕作放棄地の持ち主の方から理解を得られないケースもありましたが、地域の方々に理解が得られ、無償で土地を借りることができています」と当時の苦勞を話します。果樹園の草刈り、育成、管理は地区の男性が担当。ジャムづくりなどは女性が担当しています。その他、里山体験活動などに住民が関わり、河内の未来を想う活動が広がっています。



夏場の草刈りはとっても大変です！

「素材×アイデア」で、まちが輝く

「大学生の若い感性と感覚が、里山の素材とうまくマッチしている」。そう話すのは佐々木さん。「私たちも学生がやりたいことを河内で実現できるような環境を整えたい」と続けます。住民は、「学生が来ても、話すことがない」と最初のころは言っていたそうです。それが、交流するうちに信頼関係が生まれ、今では学生が来るのを楽しみに待っています。

学生の発想で、新しい取組もはじまりました。たとえば、かつてあった婦人部がなくなり、女性の集う機会がなくなっていたところ、学生のアイデアで「女子会」を開きました。

一昨年の秋には、協議会主催で「果樹の里山まつり」を初めて開催。地区内外から2日間で600名が訪れました。イチジク狩りと直売市のほか、学生のアイデアによる「フットパス」*や特産品が当たるビンゴゲーム大会など、里山の魅力を満喫する催しとなりました。

これまでの取組が評価され、令和2年度には「鳥取県令和新時代創造県民運動活動表彰」で最優秀賞を受賞。このことが、住民の励みにもなっています。

*フットパス (Foot (歩く) Path (こみち))

英国を発祥とする“森林や田園地帯、古いまちなみ”など、地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くこと。

「果樹の里山まつり」のようす

秋の秋たくさんとれたよー



イチジク狩り

秋空の下で
ほおばる
ピザは最高！



好評だった学生のアイデアによる「フットパス」

冷た〜い
イチジクアイスも
大好評！



里山ピザが
大人気！



今後の課題は、続けること

活動の拠点となるのは「里山ベース」。ここは、以前、生活改善センターだった場所で、加工施設がすでにあっただため、ジャムやドライフルーツなど果樹の加工をすぐにはじめることができました。

外には、協議会員手づくりのピザ釜もあり、イベントではピザが焼かれます。9・10月に鹿野で行われた「週末だけのまちのみせ」では、地元で作られた「やたら漬け」を使った「里山ピザ」や、いちじくジャムを使った「いちじくピザ」を提供しました。

「この活動は単独ではできなかつたと思う」と佐々木さん。「地元の人だけでも、私たちNPOだけでもできない。学生だけでもできなかつた。いろんな人が関わって何となくできてきた。同じメンバーで考えると煮詰まってしまう。できないと思ひ込んでしまう。そこに、違うメンバーが入ることによって、ひょっとしたらできるんじゃないか?と思う」と、世代と地域を超え、人が関わることの大切さを話します。

「問題はこれから。加工品の販売などで利益を出さないと続かない」と小林さん。今後は、イチジク以外の加工品を開発し、「果樹の里山」としての食のブランド化も視野に入れた活動を続けていきたいと、河内の未来を見つめます。



学生と住民でリノベーションした「里山ベース」。加工施設があり、一緒に料理を作るなど学生と住民の交流の場となっています。

ジャムづくり担当 中川さんと清水さんにインタビュー



住民の中川房子さん(左)と清水美佐枝さん(右)

ジャムは家で食べる用に作ったことはあったけど、売りものとなるとやっぱりちゃんと作らないといけないので気を遣います。ジャム作りの講習を受けたり、いろんな人に試食してもらったり、糖度チェックをしたり、3年くらい研究しました。自信はないけど、「おいしかった」という声を聞いたらとてもうれしいです!



「NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会」理事長の佐々木さん(右)と副理事の小林さん(左)

ジャムやドライフルーツはどこで買えるの?

鹿野町の道の駅「西いなば気楽里」、「しかの心」、「鹿野ゆめ本陣」、若桜町にある「Gallery cafe ふく」などで販売中。



サポーター募集中!

楽しみながらお手伝いを一緒にしてくれるサポーターを随時募集しています。

問合せ先

鹿野町河内果樹の里山協議会 事務局
(NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 内)

〒689-0405 鳥取市鹿野町鹿野 1809-1
TEL : 0857-84-1188 E-mail : info@shikano.org